

## 自己点検・評価シート

### 基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定(授与する学位ごと)及び公表	1	学位授与方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	食物栄養科学部では、食物栄養学科及び食創造科学科の各学科で、学位授与方針は定めている。従って、令和3年7月の学科会議で学位ごとの学位授与方針案を確認した。	食物栄養科学部では、令和3年7月の学科会議で学位ごとの学位授与方針を確認した。また、9月の学部教授会にて審議したうえで、令和4年2月の評議会にて決定される予定である。	令和6年度改善予定。
			2	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学習成果が明確に示され、授与する学位にふさわしい内容となっているか。	食物栄養科学部では、全学的な基本方針を踏まえ、これに基づいて学部としての学位授与方針を定めている。授与する学位(学科)ごとに学位授与方針を定め、学生募集要項、「大学履修便覧」及び大学ホームページにおいて、それぞれの学科の教育方針に基づいたディプロマー・ポリシーを公表・明示している。	食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。	令和6年度に改善を計画している。
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定(授与する学位ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性	5	教育課程の編成・実施方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	食物栄養科学部では、令和2年4月開設時に、教育課程の構成、実施方針を学科ごとに定めている。	食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。	
			6	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明確に示されているか。	食物栄養学科では、食物栄養科学部の養成する人材像に基づいて、管理栄養士養成学科としての「管理栄養士にふさわしい能力」「人間性」の各要素からなるように、それぞれ具体的に、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を定めている。 食創造科学科では、食物栄養科学部の養成する人材像に基づいて、栄養の専門性をもちあらゆる人々の健康と幸福のために「豊かな発想力」「体系的な企画・実践力」の各要素からなるように、それぞれ具体的に教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を定めている。		令和6年度に改善を計画している。
			7	上記の方針は、学位授与方針に整合しているか。	上記方針は、文科省への学部申請時に方針を確定したもので、完成年度まで、随時、整合性を確認する。		

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的への配慮</li> <li>・単位制度の趣旨に沿った単位の設定</li> <li>・個々の授業科目の内容及び方法</li> <li>・授業科目の位置づけ(必修、選択等)</li> <li>・各学位課程にふさわしい教育内容の設定</li> <li>・初年次教育、高大接続への配慮(【学士】)</li> <li>・教養教育と専門教育の適切な配置(【学士】)</li> <li>・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等(【修士】【博士】)</li> <li>・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> <p>○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	10	<p>全学的に見て、学部・研究科の教育課程は、どのように編成されているか。</p> <p>※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時の学習成果と、各授業科目との関係の明確性</li> <li>・専門分野の学問の体系を考慮した教育課程編成</li> <li>・学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当</li> </ul>	<p>食物栄養科学部の教育課程は、各学科の教育課程の編成・実施方針に基づいて順次性・体系的に適切に編成している。栄養士・管理栄養士の教育課程の内容に沿って単位を設定し、個々の授業科目についても必修・選択を位置付けている。食物栄養学科では、修学年次に応じて共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目を配置し管理栄養士養成の方針に沿って位置付けた科目群を配置している。4年生には集大成として卒論研究を必須科目として置いている。食創造科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる3つの力を養うため、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目を配置している。さらに、食産業分野において研究・開発・製造、衛生管理、商品企画などの活躍を想定して3年次からのインターンシップを教育課程に組み込んでいる。4年生では集大成の卒論研究・卒業演習を必須とし、並行してグローバルフードに対する実践力を身につけるために4ヶ月間の海外におけるグローバル研修を選択として設定している。</p>	<p>食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。</p>	
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)</li> <li>・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)</li> <li>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</li> <li>・適切な履修指導の実施</li> <li>・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数(【学士】)</li> <li>・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施(【修士】【博士】)</li> <li>・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul>	12	<p>全学的に見て、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、どのような方法が取られているか。</p> <p>※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育方法の整合性</li> <li>・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じた授業形態、授業方法の採用とその実施</li> <li>・1授業当たりの適切な学生数の設定と運用</li> <li>・単位の実質化(単位制度の趣旨に沿った学習時間、学習内容の確保)を図る措置</li> <li>・シラバスの作成と活用</li> <li>・履修指導</li> </ul>	<p>食物栄養科学部では、各学科の学位課程の特性に応じて単位の実質化を図り、栄養士法に基づき「資格に関わる科目」については40人クラスで授業展開を実施している。さらに、授業目的、到達目標、学習成果の指標などを設定し、また、座学学習後は演習・実験・実習などで体験学習を実施し効果的な教育を構築している。食物栄養学科では、管理栄養士科目の専門基礎分野を2つの大項目に、専門分野を8つの大項目に分けて体系的に習熟ができるように配置している。さらに授業内容とシラバスとの整合性を確保して、適切な履修指導を展開している。令和2年度、3年度は、コロナ禍と緊急事態宣言で遠隔授業、実験実習を展開した。教員、学生のICTスキルの向上と学修成果の評価についてもICT機器を活用して効果的で公平性の評価方法を実施した。食創造科学科では、下級学年で栄養関連の基礎科目を学習し、その上位に専門科目を配置している。さらに3年次にはフードマネジメントコースとフードイノベーションコースに分け専門性を深めて学習するように構築している。いずれのコースもグローバルフード研修科目を設置し4ヶ月間の海外研修を設けている。令和2年度、3年度は、コロナ禍と緊急事態宣言で遠隔授業、実験実習を展開した。教員、学生のICTスキルの向上と学修成果の評価についてもICT機器を活用して効果的で公平性の評価方法を実施した。</p>	<p>食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。</p>	
			13	<p>各学部・研究科における教育方法の導入、教育の実施について、全学内部質保証推進組織等の全学的な組織は、どのように運営・支援し、その適切性を担保しているか。</p>			

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</li> <li>・卒業・修了要件の明示</li> </ul> <p>・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</p> <p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表</li> <li>・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>・適切な学位授与</li> <li>・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul>	14	<p>全学的に見て、学部・研究科における成績評価、単位認定及び学位授与は、どのように行われているか。</p> <p>※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳正かつ適正な成績評価及び単位認定の実施</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・学位授与における実施手続及び体制の明確性</li> </ul>	<p>食物栄養科学部では、大学規定及びシラバスに沿って成績評価を実施している。単独教員担当科目及び同一科目を複数教員で担当する場合も、試験問題や採点評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から行うものとしている。また、緊急事態宣言期間は、遠隔授業の展開を実施した関係で、15回の授業期間に、授業内容に関する小レポート、小テスト、口頭発表など学生の授業への積極的な参加度などを成績評価に加味するよう努め、さらに定期試験を実施している。実験・実習では、項目ごとにレポートを求めて厳正・公平に評価を行なっている。従って、単位の認定には、シラバス記載通りに定期試験1回限りの機会ではなく小レポート、小テスト、口頭発表、授業ノート作成など成績評価の多様化を進めている。さらに、学生からの質問、疑問などについても公正な対応を行なっている。</p>	<p>食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。</p>	
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定(特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)</p> <p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	16	<p>全学的に見て、学位授与方針に示した学生の学習成果は、どのような方法で測定されているか。</p> <p>※その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の性質、学生に求める学習成果の内容に応じた把握・評価の方法や指標の導入と運用</li> <li>・当該職業を担うのに必要な能力の修得状況の把握(特に専門的な職業との関連性が強い教育課程の場合)</li> </ul>	<p>食物栄養科学部では、コロナ禍の中で遠隔(オンライン、オンデマンド)で授業展開を実施したが、最も適切に学習成果を測定する指標として資格取得の関連性が高い。専門的な職業との関連性が高く、必要能力の指標ともなる。食物栄養学科では、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者及び食品衛生監視者任用資格、栄養教諭などの取得が挙げられる。また、2020年度管理栄養士国家試験では99%以上の高い合格率を挙げている。従って、多くの学生が専門分野と関連する資格取得をしていることで教育効果が得られている。食創造科学科では、完成年度時には栄養士、食品衛生管理者及び食品衛生監視者任用資格、HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point.)管理者資格などの取得が挙げられる。今後は、成果が得られるものと期待される。</p>	<p>食物栄養科学部では、開設の完成年度を見据えて改善を検討している。</p>	

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	18 教育課程及びその内容、方法の自己点検・評価は、どのように行われているか(基準、体制、方法、プロセス等)。	食物栄養科学部では、学部自己評価委員会で点検・評価を行なった後、全学内部質保証推進委員会にその結果の報告を行なっている。全学内部質保証推進委員会はその結果をもとに、厳正に適切に顕証することになっている。		
			19 上記の自己点検・評価結果に基づき、教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。	食物栄養学科では国家試験合格率100%を達成することを目指している。2013年から始めた国家試験対策委員会については、学習のステップと専門教育が一致した教育効果が得られ、合格率や就職率など高い実績を生んでいる。さらに検証を進め改善すべきところは改善しながら、今後も教育効果の検証を継続する。食創造科学科では、インターシップ履修での評価により教育課程の検証が可能となる。	令和4年度に教育課程の検証を行う予定である。	
			20 上記において、学習成果の測定結果は、教育課程及びその内容、方法の改善にどのように活用されているか。	食物栄養科学部は、開設2年目で開設時の教育課程を展開中でもある。従って、検証及び改善は令和4年度から令和6年度に向けて実施する予定である。よって、完成年度以降に改善活用を計画中である。		